

論文内容の要旨

Factors associated with favourable neurological outcomes following cardiopulmonary resuscitation
for out-of-hospital cardiac arrest: A retrospective multi-centre cohort study

院外心停止に対する心肺蘇生後の良好な神経学的転帰に関連する要因：
後ろ向き多施設コホート研究

日本医科大学 救急医学教室
研究生 富永 直樹

本研究は、院外心停止(OHCA)に対して体外式心肺蘇生(ECPR)を受けた成人患者において、退院時に良好な神経学的転帰を得るために関連する要因を明らかにすることを目的とした。日本国内 36 施設からなる多施設共同レジストリ「SAVE-J II study」のデータを用いて、2013 年から 2018 年にかけて収集された 2157 名のうち、研究の選定基準を満たした 1823 名の患者を対象に後方視的に解析を行った。対象は、集中治療室入室前に ECPR を受けた 18 歳以上の成人であり、主要評価項目は退院時の神経学的転帰で、Cerebral Performance Category(CPC)スコア 1 または 2 を良好な転帰と定義した。

多変量ロジスティック回帰解析の結果、良好な神経学的転帰と有意に関連していたのは、現場や病院到着時にショック適応の心電図波形を認めたこと、一時的に自己心拍の再開が確認できたこと、病院到着時にあえぎ呼吸が認められたこと、対光反射が保たれていたこと、そして性別が女性であることだった。これらの因子は、心停止後に ECPR を実施する際の神経学的予後の予測において重要な手がかりとなる可能性がある。

本研究の結果は、ECPR の適応判断や初期対応における重要な臨床的指標を提供するものであり、今後の治療戦略の最適化に貢献することが期待される。